

B—28 加工織物の消費科学的研究 (第1報)  
—P. P加工とS. R加工ブラウスの  
着用テスト—

文化女大家政 ○高野富士子  
伊藤 道子  
高橋 睦子

1. 市販P. P加工, S. R加工の婦人ブラウスを購入し, 長期着用実験により, 両者の使用性能の変化を比較検討した。

2. 市販2社のP. P加工とS. R加工婦人ブラウス(ポリエステル65%, 綿35%混紡)を8名の着用実験者が2日間ずつ交互に均等着用し, 30回洗たく(弱アルカリ性合成洗剤, 濃度0.2%, 温度 $30 \pm 2^{\circ}\text{C}$ , 浴比1:30, 電気洗たく機の強水流で5分間洗たく, 2回すすぎ)繰返しを行なった。3, 6, 20, 30回洗たく乾燥後に, 長さの収縮率を測定し, 精密色差計を用いて, 表面反射率を測定しこれにより白度及び汚れ率を算出し, 加工別による汚れ率を検討した。また最も汚れやすい部位の汚れ率の変化も観察した。更に一対比較法による官能検査の両面からもしらべ, 数計学的な検討を行なった。

3. 長さの収縮率では, 両者ともにややヨコに伸び, タテに縮む傾向はあったが, 実測値は目立つものではなく, 加工別による比較もとりにたてる程のものではなかった。汚れ率はS. R加工の方が, 汚れが脱落しやすく, 3回目の洗たく後より防汚効果があられ, S. R加工の方が汚れ率が少なかった。白度, しわ, 形くずれの一対比較法による官能検査では, 洗たく回数毎にばらばらで, 順位がつけがたく, 特に白度においては, 両者の差は肉眼では感じられなかった。これは付着した汚れよりも, 蛍光増白などの影響が大きいと思われる。